

## オンライン診療 実施機関 0.5%程度 初診取扱い 11月に指針改定

厚労省は10月7日に開催した「オンライン診療の適切な実施に関する指針の見直しに関する検討会」で、オンライン診療等の実施状況を報告しました。

6月末時点で「電話・情報通信機器を用いた診療を実施できる」として登録した医療機関数は1万6,872カ所で全医療機関の15.0%となり、「初診から実施可能」は7,178カ所で6.4%でした。

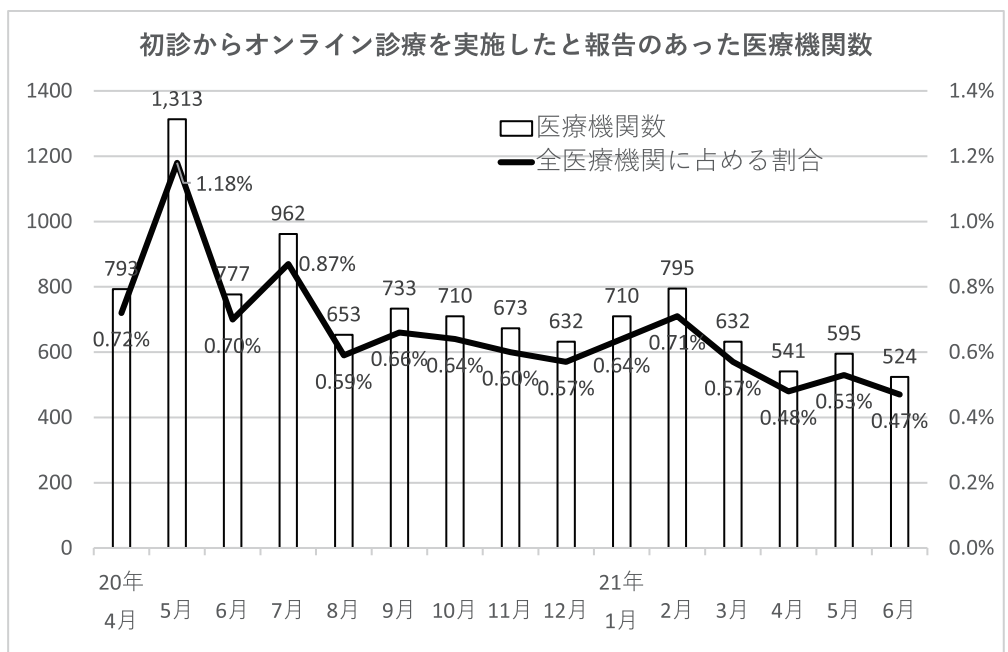
実際に初診からオンライン診療等を行ったと報告があったのは、6月実績で524医療機関と全体の0.47%でした。うち半数弱が、受診歴のない患者への実施となっています。実施医療機関は、昨年5月の1,313カ所が最多で、今年に入ってからからは緩やかな減少傾向にあります(グラフ)。

患者を年齢層別にみると、0～10歳の割合が最も多く、電話診療5,930人(29.0%)、オンライン診療2,358人(34.3%)でした。一方、71歳以上は電話・オンライン共に1割に満たず、全体として小児・勤労世代が多くなっています。最も多かった疾患は、0～14歳が上気道炎(いわゆる「かぜ症候群」)、65歳以上が発熱でした。また、基礎疾患を把握している患者の割合は電話76%、オンライン67%でした。

オンライン診療は、18年診療報酬改定で創設されました。初診は原則、対面診療とされていますが、現在は新型コロナウイルス感染拡大への対応として、時限的・特例的にオンラインでの実施が認められています。

国は来年4月の診療報酬改定に向け、オンライン診療の初診からの実施を恒久化する方向で議論しています。

同検討会では、▽初診からのオンライン診療に必要な医学的情報▽「オンラインでのやり取り」の具体的内容▽初診からのオンライン診療に適さない症状・医薬品等——などを整理し、11月に指針の改定を行う予定としています。



## 厚労省「Windows 11へのアップデート控えて」 LIFE データ入力に支障も

厚生労働省は先ごろ、科学的介護情報システム「LIFE」ウェブサイト内の「重要なお知らせ」で、10月5日から始まった「Microsoft Windows11」へのアップデートについて、データ入力やフィードバック確認などに使われるパソコンについては、更新を控えるよう呼びかけました。同時に、「Windows11への対応について検討している」として、今後対応に向けて取り組むことも明らかにしています。

2021年4月から始まったLIFEは、科学的介護実現のため、データ解析による国からのフィードバック活用により、介護施設・事業所のPDCAサイクルの好循環を目指しています。LIFE活用が要件となっている加算も多いため、不具合などが起きないように注意喚起を行った形です。